

「日々の生活の中で」

山口県 妙喜寺 住職 市原 晃靖  
みょうきじ いちはら こうせい

私の一日は「おはよう」という家族への挨拶から始まります。普段から、できるだけ挨拶をしていくことを心がけています。私の挨拶に相手からの元気な挨拶が返ってくると、とても安心した気分になります。

特に嬉しいのは、季節ごとのお寺の清掃の時です。朝早くからお檀家さん達が集まると、私は一人一人に「おはようございます。今日よろしくお願いします。」と挨拶していきます。集まったお檀家さんたちも、「おはようございます。今日もきれいにしていきたいでしょう。」「おはようございます。今日はどこからやっていけばいいですか。」「など、元気に返事を返してくださいます。しかし、中にはいつもより元気がないお檀家さんの返事に「何かあったのかな」と少し心配になってしまうこともあります。私は、挨拶を「コミュニケーションの入り口」と考えるようになりました。

ところで、「挨拶」という言葉は、仏教用語の「一挨拶いちげいさつ」からきているとご存じですか？「一挨拶」とは、禅僧の間で、師匠が弟子と押し問答をし、修行や悟りの深さを試す言葉です。「挨拶あいさつ」は押す、近づく、寄り添う、「拶じやく」は迫る、「挨拶」は、相手の悟りを推し量るという意味があります。また、今日使われる「挨拶」は、返礼、礼儀、親愛の言葉として使われ、相手の心の状態を思いやることができます。

しかし、昨今挨拶をしない人も増えたように思います。相手から挨拶が返ってこない、返事が小さかった場合、何かあるのかと心配になってしまっていることもあるでしょう。また「コミュニケーションが取れないこと」でストレスに感じることもあるでしょう。

「コミュニケーションの入り口」としてお互いに「挨拶」を交わし、お互いの心を開くためのきっかけとして「挨拶」を率先していきましょう。お互いの縁を深めることで、自分自身、ひいては周りの人たちとともに、日々の生活をより豊かにしていきたいでしょう。